

# あぷろうち

~ approach ~



日本労働組合総連合会  
群馬県連合会(連合群馬)

発行人 清村宗一

編集人 中川文蔵

2002年8月号

NO.125

〒376-2166

群馬県前橋市野中町361番地の2  
(群馬県勤労福祉センター2F)

TEL.027-263-0555(代)

FAX.027-261-0549

Eメール rengo-gunmma@mtg.biglobe.ne.jp

## ヒロシマ・ナガサキの暑い日差し、世代をこえて平和を誓う!

### 平和行動in広島に12名を派遣

連合群馬は、各地の平和行動に学び、人権の遵守・確立と核兵器のない平和な社会の実現を求める運動を進めるため、富沢執行委員(サービス流通連合)を団長とした12名の参加団を平和行動in広島に派遣しました。



◀ 平和祈念式典会場にて

連合主催の平和行動in広島は、8月5日、「つくろう平和な世界、21世紀」を統一スローガンに、「すべての核兵器廃絶と核実験の禁止。恒久平和の実現を!被爆者の叫びを世界へ」と題して開催されました。

参加団は、平和記念公園内の慰霊碑・記念碑を連合広島青年部の案内で巡るピースウォークや「連合平和ヒロシマ集会」に参加しました。

集会では、榊原連合広島会長代行から「核兵器が抑止力から攻撃兵器に変貌しようとしている。こうした危険な動きを認めるわけにはいかない。平和・軍縮・核兵器廃絶を目指して共に行動しよう」と主催者挨拶がありました。集会の後、参加者は原爆ドームへ移動し、ドームを囲み、被爆者の鎮魂と世界の恒久平和を求め、キャンドルを灯して思いを新たにしました。

翌6日の広島市・平和記念式典では、秋葉広島市長から「いままさに、核戦争勃発の可能性が高まっている。特に昨年の9月11日のアメリカ同時多発テロ攻撃以後、「憎しみと暴力、報復の連鎖」を断ち切る和解の道が忘れ去れつつある。互いの違いに寛容であること、どんなに小さくても



▲連合広島青年委員会を中心になってピースウォークを実施

世界遺産にも指定された、原爆ドーム。核爆発の威力と恐ろしさをいまに伝えて

よいから協力を始めることが大切」と言った、和解による平和堅持の必要性が訴えられました。

また、参加団は、広島平和記念資料館で57年前の生き地獄の様子を見学・追体験しました。「人影の石」「焼けこげた女学生の制服」「溶けた一升瓶」などの遺品は、一瞬にして街のほとんどが壊滅し、多くの尊い命が奪われた惨状を雄弁に物語っていました。まさに、被爆した人々の苦しみや悲しみ、怒りをいまに伝えているように思えました。

人類は核兵器と共存できない・・・文字通り玉の汗が出る暑いヒロシマの夏の日差しの中で、平和への誓いを新たに行動でした。

### 平和行動in長崎に女性委員2名を派遣

怒りの広島・祈りの長崎と言われるもう一つの被爆都市長崎でも平和行動in長崎と題して8月8日反戦・平和・核兵器廃絶に向けた取り組みが行われました。

連合群馬を代表して女性委員会から2名が参加し、その感想を寄稿してくれました。

### 連合平和ナガサキ集会に参加して

女性委員会副委員長 富所 康子  
幹事 金子 里美



平和行動in長崎に参加した富所副委員長(右)と金子幹事

57年前の8月9日午前11時2分、この歴史の街・長崎に原子爆弾が落とされた。私たち自身は、原爆の悲惨さを過去のこととして歴史の中で学んだが、長崎に住む人たちにとっては、原爆の投下は過去のものではなく57年経た今でも被爆の苦しみとして続いている。そして、まったく経験のない子供たちにも両親や祖父母から語り伝えられて来たのであろう「核兵器廃絶と世界恒久平和」への強い願いが、ひしひしと感じられた。

昨今、何かと問題の多い高校生が、「高校生一万人署名活動」や「高校生平和大使」の国連派遣をはじめとするさまざまな活動を、ここ長崎で生み出している。こうした若い世代が、「核兵器の廃絶と世界の恒久平和」を熱い思いで語っている様を目の当たりにし、人類の共通の願いである「核も戦争もない平和な地球」を子供たちに残していくため、労働組合の役割として、一日も早く非核社会を実現させる必要があり、この平和行動の取り組みを継続していくことが重要だと強く感じた。連合群馬女性委員会を代表して、貴重な体験をさせていただいたことに感謝いたします。



連合平和ナガサキ集会会場にて